

都市整備局・住宅政策本部業務体験発表会
(令和5年度)
概要書

発表テーマ	歴史ある十条富士塚を生まれ変わらせる ～こどもたちが地域に愛着を持ち、100年後の未来につなぐ～
発表の概要	<p>東京都は、道路ネットワークの形成、沿道建物の不燃化促進や安全な避難路の確保など防災性の向上を目指して、北区十条地区において都市計画道路補助第83号線の整備を進めている。</p> <p>十条地区は、木造住宅が密集し、災害時の危険度が高いことから、防災都市づくり推進計画の重点整備地域に指定されている。</p> <p>一方、同地区は、江戸時代以来、富士信仰に基づいて祭儀が行われてきた場所であり、北区有形民俗文化財に指定されている「十条富士塚」が現存しているなど、歴史的にも貴重な地域である。</p> <p>しかし、道路整備に当たっては、富士塚の大部分が計画線内に位置し、支障となっていることが課題であった。事業を円滑に進めるためには、地域の魅力の代表である富士塚を生かしながら、子供たちを中心に住民が地域に愛着を持ち、将来につなぐことを視野に入れて、地元の理解を得ながら整備していくことが重要であった。</p> <p>このため、富士塚の所有者（富士講）や文化財に係る北区教育委員会等と十数年にわたる調整を重ね、規模を縮小する再建により保全することで合意形成を図った。さらに、再建工事の期間中には、こどもを対象とした見学会等を開催し、事業や地域の魅力を学ぶ機会を創出するとともに、地域住民の事業への理解促進にも努めた。</p> <p>本発表では、文化財の再建に当たり、度重なる調整や困難な工事を進めて、地域財産の保全と道路整備の両立を図ったことや、見学会など地域と連携した取組を通じて、地域の特色を生かし、こどもたちが地域に愛着を持って100年後の未来につなぐまちづくりを行う重要性について学んだことなどを紹介する。</p>

歴史ある十条富士塚を生まれ変わらせる
～こどもたちが地域に愛着を持ち、100年後の未来につなぐ～

1 はじめに

1-1 補助第83号線の整備

第二市街地整備事務所では、道路ネットワークの形成、沿道建物の不燃化促進、安全な避難路の確保など、防災性の向上を目指して、北区十条地区において補助第83号線の拡幅事業を進めている。

本路線は、JR十条駅から徒歩10分、JR東十条駅から徒歩5分の場所に位置し、延長は第I期区間と第II期区間を合わせて約1kmである。

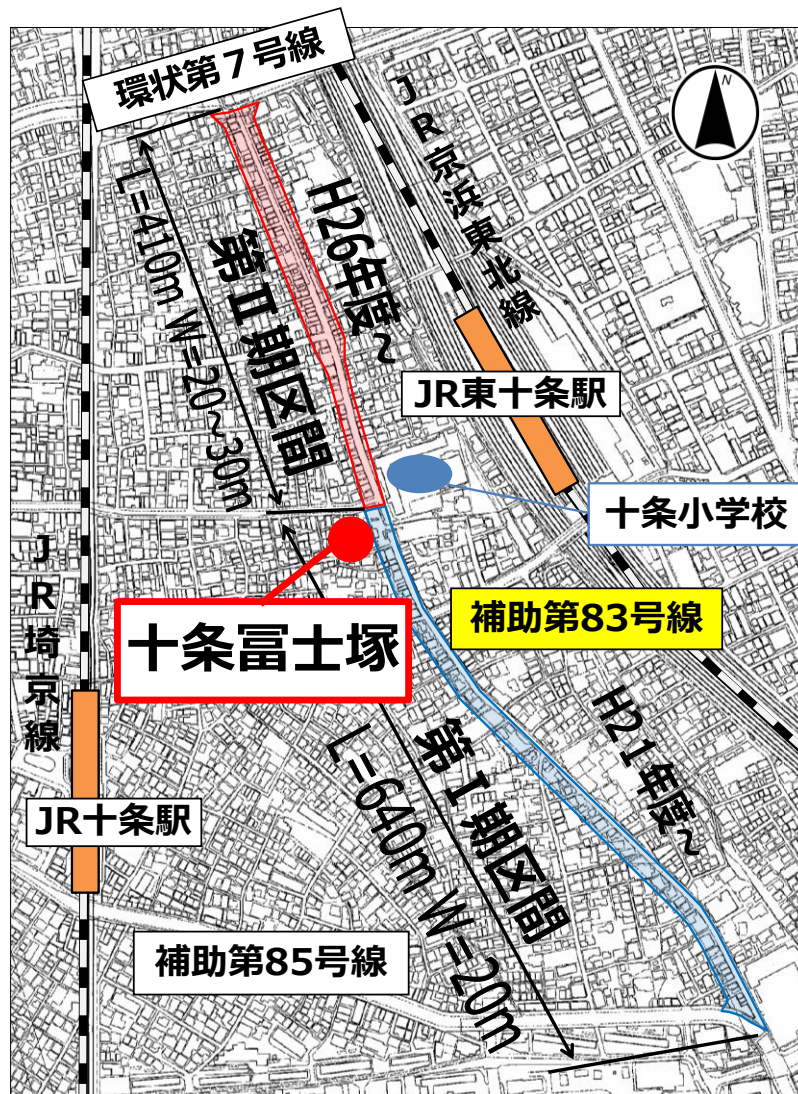


図1 補助第83号線（十条地区）位置図

1-2 伝統的な歴史・文化のあるまち

十条地区は、道路や公園の都市基盤施設がぜい弱な状況にあるとともに、建物の老朽化が進んでいることから、防災都市づくり推進計画の重点整備地域に位置付けられている。

また、当地区の避難路となる補助第83号線は、接続する多くの道路が狭小で行き止まりとなり、消防活動困難区域が存在するなど防災面をはじめとした住環境及び交通における課題を抱えている。

一方で、十条富士塚といった歴史的にも貴重な文化財や、篠原演芸場のような文化的に親しまれている建造物などが現存しているとともに、古墳や縄文土器などが出土するなど、古代の人々にとって、住みやすい地域でもあった。

江戸時代から地域の方に親しまれてきた「十条富士塚」は、江戸時代以来、富士信仰に基づいて祭儀が行われてきた場所であり、北区有形民俗文化財に指定されている。また、毎年、富士山の山開きに合わせて、6月30日と7月1日には十条富士神社大祭「お富士さん」が開催され、多くの参詣者でにぎわい、地域に親しまれている。



図2 現存していた十条富士塚



図3 発掘された土器

※一般的に「富士塚」は、富士山を模して造られた人工の山や塚のことであり、富士山の溶岩を用いて積み上げられたものも存在する。江戸時代、女性やお年寄り等、実際に富士登山ができない人々のため、富士塚が造られたと考えられている。

2 道路整備の円滑な推進に向けて

一般的に道路整備に当たっては、将来を見据え、地域の特長を生かしたまちづくりを進めていくとともに、地域住民の理解を得ながら、事業を推進していくことが重要である。

本事業においては、以下の課題を解消する必要があった。

2-1 道路計画線内にある文化財の保全

道路整備に当たって、十条富士塚の大部分が道路計画線内に位置することから支障となっていた。道路整備に伴い文化財を撤去する事例は多いが、歴史的価値が高く地域のシンボルである十条富士塚については、所有者である富士講から、道路整備後も将来に残したい意向が示された。このため、道路事業を推進する上で、富士塚の取扱いについて慎重に検討していく必要があった。

十条富士塚現況図 S=NOSCALE

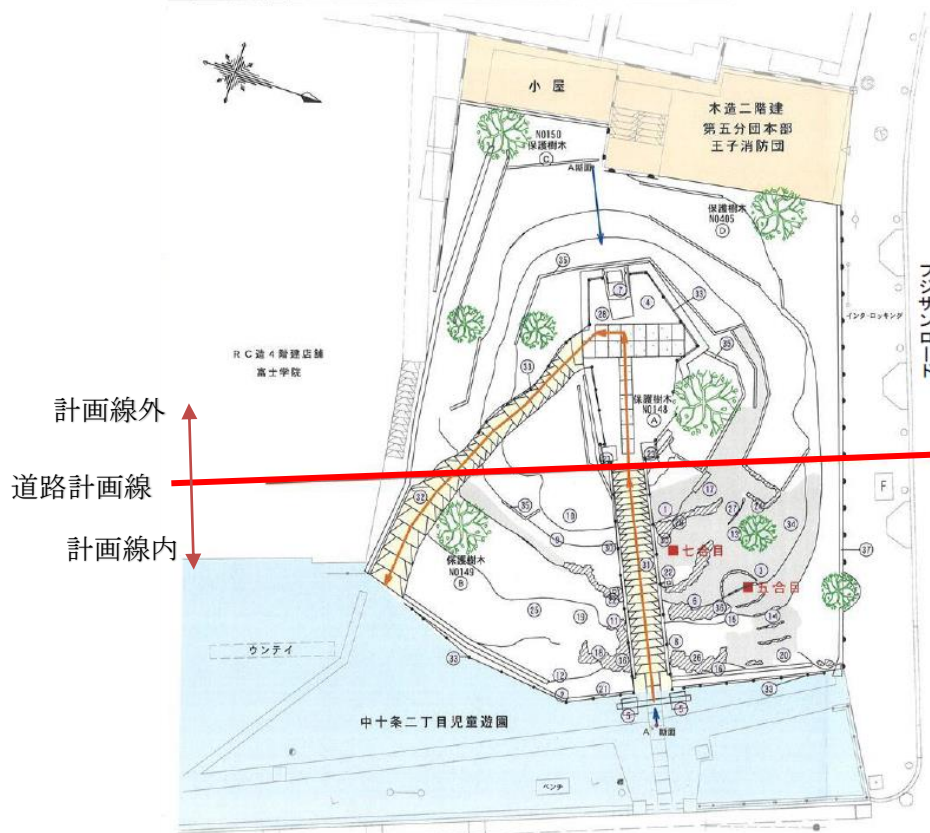


図4 十条富士塚と道路計画線の位置関係

2-2 事業に対する住民理解の促進

十条地区では、地域住民の事業内容に対する理解や、住民と対話する機会が十分ではなく、防災やまちづくりへの関心が必ずしも高いとは言えなかった。

また、沿道に位置する近隣小学校の児童は、工事現場付近の歩行者通路を通学路にしているが、道路の拡幅や富士塚の再建によって自分たちが住むまちがどのように変遷するかをじかに感じとり、まちづくりを学び知る機会も少ない状況であった。

3 歴史・文化を継承するまちづくり（再建をきっかけとした地域と連携した取組）

ここでは、地域の魅力のひとつである富士塚を生かしながら、こどもをはじめ住民が地域に愛着を持ち、将来につないでいくことを視野に、事業を推進するための取組を紹介する。

3-1 新しい富士塚に生まれ変わらせるための取組

(1) 所有者（富士講）との合意形成

道路整備に伴い支障となる富士塚について、事業開始当初から14年余りにわたって、富士講や北区教育委員会と折衝・調整を重ねてきた。

富士講の意向に基づき、富士塚を既存のまま保全しながら道路整備を行う方法として、道路線形や幅員の変更等について検討したが、安全性や利便性などの理由により困難であった。このことについて、富士講内でも「地域の防災性や交通安全性の向上を図りながら、富士塚を既存のまま保全することは困難」という意見があった。

このため、代替案として再建案を検討し富士講に提示することで、最終的には計画どおりに道路を整備し、富士塚を再建することで同意した。具体的には、計画線外の残地において、従来の約3分の2程度の規模で、東京都が所有者に代わり補償代行工事として塚を再建することとした。

表1 十条富士塚完成までの主な流れ

昭和21年	補助第83号線の都市計画決定
平成21年	補助第83号線(十条I期)の事業認可決定
平成21年～	所有者(富士講)と折衝・調整 <調整事項> ○道路線形、幅員変更に係る検討 ⇒安全性や利便性上の理由により困難 ○再建案の検討 ○文化財保全に係る北区教育委員会及び北区文化財保護審議会との調整
平成27年	文化財保護審議会より答申(文化財の価値を維持しながら現状変更で対応すべき) ※現状変更・・・登録有形文化財建造物の修理のうち、文化財としての価値を有する部分に直接的かつ物理的に変化を加えること
平成30年	文化財保護審議会より答申(現状変更の許可)
令和2年	再建合意(補償代行工事) 十条富士塚再整備に伴う補償代行工事(その1) ⇒石碑移設・除却
令和3～4年	十条富士塚再整備に伴う補償代行工事(その2) ⇒躯体築造(擁壁・杭)
令和4～5年	十条富士塚再整備に伴う補償代行工事(その3) ⇒石碑復旧・階段築造など仕上げ
令和5年	再建完了

(2) 再建に係る北区教育委員会等との調整

十条富士塚の文化財としての価値を損ねることがないように、再建工法については、北区教育委員会と度重なる調整を行った。

当該地は、狭い敷地かつ軟弱な地盤であったため、塚の構造検討や施工は困難を極めた。もともとあった 32 基の石碑については、文化的な観点から従前の配置を再現する必要があったが、再建後の塚は急斜面な上に狭かったため、固定方法に苦慮した。くわえて、北区教育委員会からは、従前の塚の土を保全し、再建後は塚に戻すことなど、厳しい条件を提示された。

そこで、軟弱な地盤であることを踏まえ、塚の構造は馬蹄型のコンクリート杭構造とし、高所箇所の土盛りに軽量盛土材を用いるなど、安全性の確保に努めた。

石碑の設置に当たっては、保管している石碑の補修が必要であったこと、移設に当たり慎重に扱うことが求められたため、石材の専門業者に依頼し、安全かつ確実に実施することとした。



図5 再建した十条富士塚



図6 石碑の固定・設置



図7 再建前の塚の土を保全（馬蹄型コンクリート）



図8 杭の打設

3-2 地域の声を聴き、魅力を感じる機会の創出

(1) 十条富士神社大祭

十条富士神社大祭「お富士さん」は、毎年6月30日と7月1日に開催され、多くの参詣者でにぎわう祭りである。

令和5年度、富士塚の再建工事中に頂部に登りたいと地域から多くの要望を受けたこと、また、塚の意匠等について地域住民の意見を聴くとともに、再建をアピールするため、大祭の期間の二日間限定で富士塚を一般開放した。

大祭当日は、開放された富士塚の参拝者が列を作るなど、盛況であった。参加者からは、「立派な富士塚になった」、「他のコンクリートで固めた富士塚とは違い、風合いがあり、歴史を感じる」など再建に肯定的な声を頂いた。さらに、参拝者からは安全対策に関する意見も頂くことができ、階段手すりを増設するなど、再建工事に反映することができた。



図9 大祭当日の富士塚



図10 頂部へ続く階段



図11 富士塚参拝者の待機列

(2)「こども見学会」の開催

富士塚の再建を進めていく中で、縄文から江戸時代までの土器類や戦時中の防空壕が発見された。そのことを契機に、児童に対して富士塚や地域の歴史、道路事業やまちづくりを学ぶ機会を創出するとともに、こうした取組を通じて保護者に対して事業への理解促進につなげるなどの波及効果を期待して、隣接する小学校に対し、富士塚で歴史を学ぶ現場体験授業「こども見学会」を開催した。

具体的には、発掘された防空壕や土器類の見学や、こども向けのパネルを作成するなどの工夫を講じながら富士塚工事や道路整備についての説明を行った。さらに、工事現場の危険箇所や注意事項を説明するなど、第三者事故の防止にも配慮した。

また、令和5年12月実施の見学会では、関東大震災から100年の節目であることを踏まえて、震災ビデオの上映やパネルの説明を行うなど、防災意識を高めるための工夫をこらした。

実施後のアンケートでは、多くのこどもが、道路事業や塚のコンクリート杭構造などの土木工法、十条地区の歴史に興味を示すなど、大きな反響となった。後日、保護者からは、「富士塚の見学会にうちの子も参加して喜んでいて、今後も地域のために実施してもらいたい」などの意見をメールで頂いた。



図12 富士塚の概要を説明



図13 現場に将来の歩道や車道の位置を明示

見学会で行った工夫として、補助第83号線の完成イメージや効果を分かりやすく実感できるように、現場に将来の道路の位置をテープで示した(図13)。

また、工事危険箇所や注意事項について、床に置いたパネルを用いて説明することで、小学生が見て、触って学習できるようにした(図14)。



図14 パネルを見て、触って学習

4 おわりに

富士塚の再建に当たって、関係者との度重なる調整や困難な工事を進めて地域財産の保全と道路整備の両立を図ったことや、「こども見学会」など地域と密接に連携した取組を実施したことは、補助第83号線事業の推進に大きな貢献をもたらすと考える。

今回の体験を通じて、長期間にわたる道路事業を推進する上で、富士塚のように地域の歴史を継承し、地域住民が愛着を持つまちづくりを実現することの重要性を学ぶことができた。

今後も、防災性や利便性などを実現する強靱で魅力あふれるまちづくりを行うため、引き続き、創意工夫を講じながら見学会を開催するなど、現場感覚を持つとともにこども目線に立って情報発信する。

また、地域の声の聴くことで事業への理解促進等を図り、着実かつ迅速に道路事業を推進していく。さらに、次代を担うこどもたちが地域の魅力を感じ、まちづくりに愛着を持てるよう、今回のような各種取組を積極的に講じ、100年後の未来につないでいく。